

七浦地区の概要

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00050431

1. 七浦地区の概要

西本 陽一

- | | |
|------------|------------|
| 1. はじめに | 3. 人口と世帯構成 |
| 2. 七浦地区の概要 | 4. おわりに |

1. はじめに

金沢大学文化人類学研究室では 2017 年度の学部 3 年生を対象とする調査実習を、石川県輪島市門前町七浦地区にて実施した。本報告書は調査実習に参加したメンバーが執筆した報告によって構成されており、本研究室の調査実習報告書としては 33 冊目のものとなる¹。

本報告書は全体として総合的な地域調査報告書を目指しているが、第 2 章以下の各章は、主に各執筆者の関心に応じたテーマについて書かれているため、全体として対象地域の生活について網羅的・体系的記述がなされているわけではない。そのため本章では、七浦地区について概観し、人口・世帯データによる分析を行うことで、第 2 章以下の個別テーマによる各論への導入とする。

2. 七浦地区の概要²

七浦（しつら）地区は、石川県輪島市門前町の 1 つの地区で、皆月（みなづき）、五十洲（いぎす）、吉浦（よしうら）、矢徳（やとく）、中谷内（なかやち）、大滝（おおたき）、鶴山（うやま）、餅田（もった³）、百成大角間（どうめきおおがくま）、井守上坂（いもりあげさか）、薄野（すすきの）、暮坂（くれさか）、樽見（たるみ）の 13 の「区」からなる。

「しつら」の名は、中世の志津良荘および江戸期の七浦組にちなむという。その後、明治 22（1889）年の町村制施行により、後に門前町を構成することになる、劔地村、仁岸村、阿岸村、諸岡村、櫛比村、本郷村、浦上村、黒島村とともに七浦村が発足した。七浦村は、上記 13 区（当時は「村」）および小杉（こすぎ）村⁴が合併して成立したものだ。昭和 29（1954）年 3 月 31 日には町村合併促進法により、旧門前町と本郷、浦上、七浦、諸岡、黒島各村が合併して新「門前町」が発足した⁵。さらに平成 18（2006）

¹ 既刊の調査実習報告書の一覧は、巻末の「参考文献・参考資料」に掲げておいた。

² 七浦地区については『七浦民俗誌』（1996 年）という詳細な報告書がある。本節は同書の記述を基礎にして、同書発行以後の新しい情報を追加するという方法をとる。

³ 「もちだ」「もった」とも言われる。

⁴ 小杉は戦後に消滅した（『七浦民俗誌』1996: 6）。

⁵ さらに昭和 31（1956）年には、劔地村も門前町に加わった。

年2月1日に門前町は輪島市と合併して新「輪島市」となった⁶。

七浦地区は能登半島北部西側の日本海に面した丘陵地に位置し、皆月湾から山間部へと広がる。大きく海の集落（皆月、五十洲、吉浦、鶴山）と山の集落（矢徳、中谷内、大滝、餅田、百成大角間、井守上坂、薄野、暮坂、樽見）に分かれ、海の集落は比較的面積が広くて人口が多く、山の集落は斜面に小規模の集落が点在している（Tさん、皆月、男性、69歳）⁷。

七浦地区は門前町から北北西に位置し、かつて門前町の中心にある総持寺から、山道の多い県道五十洲・亀田線を通してバスで約30分かかった。しかし、平成28（2016）年3月12日に、五十洲と門前町和田をつなぐ市道まがき線が「おさよトンネル」（1359m）の開通によって完成し、交通は格段に便利になった。ずっと昔には、山越えが必要な陸上交通よりも海上交通の方が盛んな時代があり、当時は輪島や大沢に船で行く方が便利だったという。

七浦地区は、戦後の高度経済成長期（1955～73年）以前には、農林漁業を生業としていた。海側の集落には漁業従事者が多く、山側の集落には農林業従事者が多いという傾向はあっても、農林漁業のどれか一つを生業とするのではなく、各世帯複数の仕事に従事していたと思われる。例えば、「（七浦では）専門は少ない」と話すTさんも、船員を生業としながら（現在は引退）、漁業、林業、大工、左官などさまざまな仕事ができる人である。また皆月の網元には、山の集落に山林を所有している人もいた。海と山とははっきりとした境界で仕切られていたわけではなかった。

高度経済成長期に入ると、地区の外に仕事を求める人が多くなったが、その仕事の一つが外国航路の船員であった。「皆月／七浦には船乗りが多い」という言葉を実習中に何度か聞いたが、特に海側の集落からは、七尾にあった海員学校を出るなどして船員になる人が多く、「戦後は150～200人くらいの船員がいた」（Bさん、皆月、男性、80歳）というほどであった。船員は「一年の3分の2は海上」（Iさん、皆月、男性、62歳）という過酷な仕事であった反面、かつては引退後に比較的多くの年金を受取ることが出来た。また高度経済成長期からは出稼ぎや仕事を求めての移住も増え、七浦地区の人口も次第に減ってゆく。現在七浦地区は高齢者が多くを占める地区になっているが、一部にはかつて仕事のために他所に出て行った人々が帰ってきている。

文化的な面では、間垣、皆月山王祭、アマメハギ、お小夜祭りなどが挙げられる。間垣は、冬場の暴風雨を避けるために竹を編んで作る垣根であり、海側の家々に見られる。皆月山王祭は毎年8月10～11日に行われ、大きな曳山が曳かれる勇壮な祭りで、この祭りのために集落外に暮らす人々が多数帰省してくる。アマメハギは、能登で見られる

⁶ 『角川日本地名大辞典 17 石川県』1981年、『七浦民俗誌』1996年、『新修門前町史 通史編』2006年を参照。

⁷ 2017年6月23日付住民基本台帳によると、七浦全人口の68.86%が皆月、五十洲、吉浦、鶴山に居住している。

「正月や小正月などの年越しの晩に、仮面をつけた来訪者（神様）が家々を訪れて、その家の災厄を祓い、幸福をもたらす」（『門前町の祭り』2004: 1）行事で、七浦では皆月と五十洲で現在も行われている。お小夜まつりは、能登麦屋節を中心として近年に新たに創設された祭りで、昭和 61（1986）年に第一回お小夜祭りが開催され、継続されている。

3. 人口と世帯構成

	区	男性 (人)	女性 (人)	人口計 (人)	世帯数 (戸)	平均世帯 成員数 (人)
1	皆月	101	126	227	112	2.03
	1組	14	12	26	12	2.17
	2組	4	5	9	4	2.25
	3組	7	12	19	9	2.11
	4組	16	23	39	19	2.05
	5組	16	15	31	13	2.38
	6組	9	18	27	15	1.80
	7組	9	10	19	13	1.46
	8組	10	10	20	10	2.00
	9組	7	10	17	6	2.83
	10組	9	11	20	11	1.82
2	五十洲	24	34	58	37	1.57
3	吉浦	11	10	21	11	1.91
4	矢徳	13	22	35	16	2.19
5	中谷内	15	19	34	18	1.89
6	大滝	7	7	14	9	1.56
7	鵜山	10	9	19	10	1.90
8	餅田	3	5	8	5	1.60
9	百成大角間	13	11	24	15	1.60
10	井守上坂	7	10	17	9	1.89
11	薄野	1	2	3	2	1.50
12	暮坂	3	2	5	4	1.25
13	樽見	2	5	7	6	1.17
	計	210	262	472	254	1.86

出所：平成29年6月23日付け住民基本台帳

表1は住民基本台帳による2017年6月23日現在の七浦地区の人口及び世帯の状況で、人口472人、世帯数254世帯、一世帯あたりの平均成員数は1.86人である。平成27（2015）年国勢調査によると、日本全国では一世帯あたりの人員は2.33人で⁸、七浦地区の世帯規模はそれよりだいぶ小さいことが分かる。また人口の男女比については、七浦地区が1:1.24であるのに対して、全国のそれは1:1.06であり、七浦地区の方が全国よりも女性人口の割合が高い⁹。女性が男性よりも平均寿命が高いことを考えると、この結果は七浦地区の高齢化（後述）と関係していると推測される。区ごとに見

⁸ 全国の数字は「一般世帯」のものである。

⁹ 平成27年国勢調査の結果については、総務省統計局のウェブサイトを参照。

ると、(矢徳を除くと)規模の大きい皆月が一世帯あたりの平均成員数が多く(2.03人)、世帯規模の縮小(後述)の中で、比較的在世帯規模が維持されていると言えるかもしれない。

表2 七浦地区の人口と世帯数の変化(世帯数:戸、人口:人)

		昭和40 1965	昭和45 1970	昭和50 1975	昭和55 1980	昭和60 1985	平成02 1990	平成07 1995	平成12 2000	平成17 2005	平成22 2010	平成27 2015
皆月	世帯数	198	188	178	173	167	162	154	143	124	111	98
	人口	751	683	577	491	477	443	393	339	292	250	210
五十洲	世帯数	45	45	43	41	43	42	40	38	36	34	31
	人口	199	167	137	129	121	109	86	74	70	67	48
吉浦	世帯数	18	18	18	18	18	18	16	17	16	12	11
	人口	84	80	69	56	53	46	41	41	43	29	21
矢徳	世帯数	24	24	23	22	22	21	20	19	19	19	17
	人口	119	130	101	80	77	62	53	45	43	38	32
中谷内	世帯数	23	23	23	22	21	21	22	21	19	18	15
	人口	92	93	92	91	87	72	62	49	43	40	29
大滝	世帯数	11	11	11	10	10	11	11	9	9	8	7
	人口	64	58	38	30	26	25	23	17	15	14	13
鶴山	世帯数	14	14	13	13	12	12	10	13	14	13	12
	人口	60	55	42	40	35	30	24	29	25	22	21
餅田	世帯数	6	6	6	5	5	4	4	4	4	4	4
	人口	28	26	28	24	16	14	13	11	9	9	8
百成大角間	世帯数	21	20	21	20	19	16	14	15	15	11	13
	人口	106	89	85	72	58	47	39	35	34	24	25
井守上坂	世帯数	14	14	16	13	13	13	12	12	11	10	9
	人口	78	73	67	54	43	38	27	26	23	18	14
薄野	世帯数	6	6	6	6	5	5	4	4	3	3	2
	人口	36	32	26	18	13	11	7	8	6	5	3
暮坂	世帯数	11	8	9	9	9	7	7	7	6		
	人口	52	40	35	26	22	17	13	9	8		
樽見	世帯数	5	5	5	5	4	4	3	3	4	9	8
	人口	32	29	22	17	16	10	7	9	8	11	9
	世帯数	396	382	372	357	348	336	317	305	280	252	227
	人口	1701	1555	1319	1128	1044	924	788	692	619	527	433
世帯平均成員数		4.30	4.07	3.55	3.16	3.00	2.75	2.49	2.27	2.21	2.09	1.91

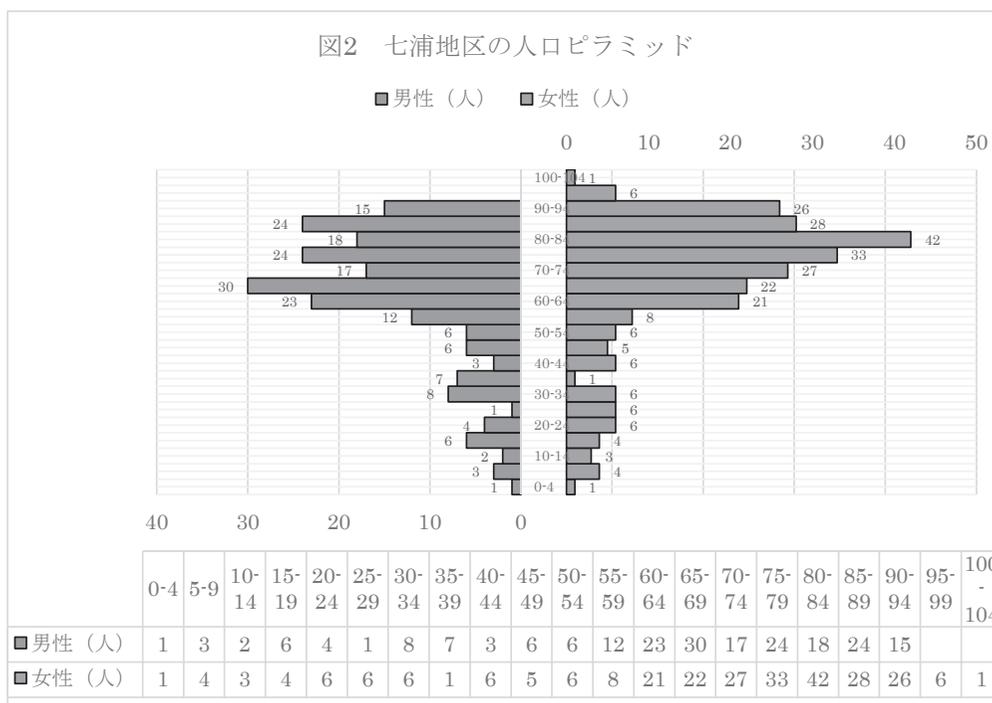
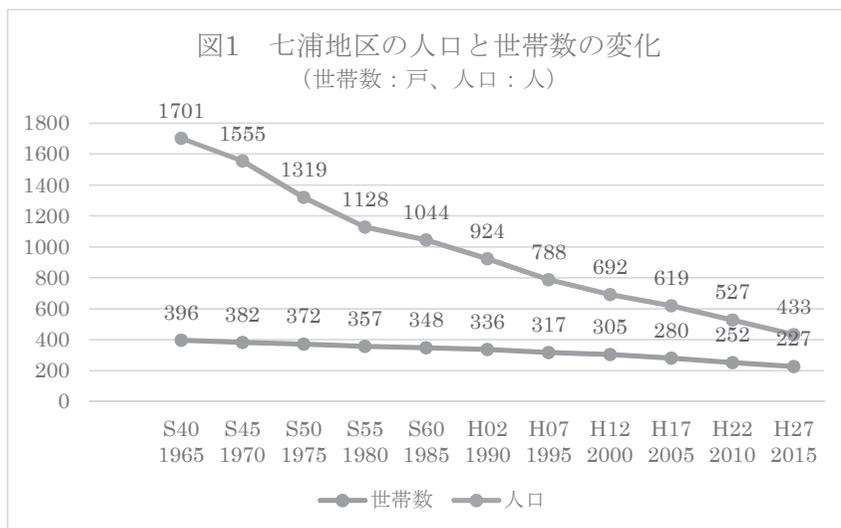
出所:各年の『市町地区別人口及び世帯の概数』より

*平成22(2010)年は、暮坂と樽見は一つにまとめられている。

表2と図1は1965年からの七浦地区の人口と世帯数の変化を示したものである。人口・世帯数ともに年々減少しているが、人口の減少率に対して、世帯数の減少率は小さい。日本全体の数字と比較すると、1965年以来七浦地区が人口・世帯数ともに減少を示してきたのに対して、日本全体では人口・世帯数ともに増加を続け、人口のみが2005年から減少局面に転じた¹⁰。つまり、七浦地区と日本全体の人口・世帯数は異なった変

¹⁰ 日本全体で言えば、特殊要因(丙午)を除くと、明治以来ずっと人口増加は続いたが、経済成長とともに合計特殊出生率は急速に低下し、2005年の国勢調査で前年人口を下回り人口は減少局面に移行した。一方、全国の世帯数は、1970年の30,297千世帯(一般世帯)から平成27(2015)年の53,332千世帯へと増加を続けてきたが、一世帯あたりの平均成員数は3.41人(1970年)

化を示してきた。



七浦地区と日本全体が類似の変化を示してきたものに、一世帯あたりの平均成員数がある。しかし細かく見ると、七浦地区の世帯規模は1970年時点では全国よりも大きか

から2.33人(2015年)へと漸減してきた。

ったが（七浦 4.07 人：全国 3.41 人）、2015 年には逆になった（七浦 2.09 人：全国 2.33 人）¹¹。別の言い方をすれば、七浦地区では日本全体よりも急激な世帯規模の縮小が見られた。これは出生率の低下および世帯の一部成員による集落外へ移住によって、世帯規模は縮小しながら、世帯数はある程度維持されたのだと推測される。

図 2 は七浦地区の人口ピラミッド（性別年齢層別人口構成）を示したものである。一見して明らかなおとおり、人口ピラミッドは頭でっかちな形をし、また女性の方が人口が多い。男性の最大値は満 65 歳以上 70 歳未満の層であり、女性の最大値は満 80 歳以上 85 歳未満の層に見られる。

年齢層	男性(人／%)		女性(人／%)		計(人／%)	
0～14歳	6	2.86	8	3.05	14	2.97
15～64歳	76	36.19	69	26.34	145	30.72
65歳以上	128	60.95	185	70.61	313	66.31
計	210	100.00	262	100.00	472	100.00

出所：2017年6月23日付住民基本台帳

表 3 は七浦地区の男女別人口構成を示したものである。男女を合わせた高齢者（満 65 歳以上の人）は 313 人で、全人口 472 人の 66.31% を占める。女性の高齢化率は男性のそれより高く 70.61% である。一方、労働力人口として満 15 歳以上 65 歳未満の人口を見ると、七浦全体で 145 人（30.72%）で、高齢者人口の半分にも満たず、計算上では働く人 1 人あたり 2 人以上の高齢者を支えている計算になる。0 歳以上 15 歳未満の人口はわずか 14 人で全人口の 3% 弱であり、学齢期の子供の減少により七浦地区内に小中学校はなくなっている（第 7 章を参照）。

七浦地区の世帯類型としては、「単身世帯」が最も多く 116 戸（45.67%）、次いで「夫婦世帯」77 戸（30.31%）、「核家族世帯」36 戸（14.17%）、「直系家族世帯」23 戸（9.06%）、「その他」2 戸（0.79%）となっている（表 4 と図 3）。単身世帯のうち 102 戸（40.16%）、夫婦世帯のうち 64 戸（25.20%）は高齢者のみで暮らす世帯である。

これを平成 27（2015）年国勢調査による全国の世帯分類と比較したのが表 5 である。全国の「一般世帯」の類型は、「単身世帯」18,418 千戸（34.53%）、夫婦世帯 10,718 千戸（20.10%）、核家族世帯 19,036 千戸（35.69%）、「直系家族世帯」および「その他」の合計 5,160 千戸（9.68%）となっている¹²。二つを比較すると七浦地区では、「単身世

¹¹ 全国の数字は「一般世帯」のものである。

¹² 日本全体の統計では一般世帯は「単独世帯」「核家族世帯」「その他の世帯」に類型分類され、このうち「核家族世帯」は「夫婦のみ世帯」「夫婦と子供から成る世帯」「ひとり親と子供からなる世帯」から構成される（総務省統計局ウェブサイト）。ここでは総務省統計局による類型、「単独世帯」、「夫婦のみ世帯」、「夫婦と子供から成る世帯」および「ひとり親と子供から成る世帯」、「その他」を、本書類型の「単身世帯」、「夫婦世帯」、「核家族世帯」、「直系家族世帯」および「その他」に当たるものとして計算した。なお全国統計の「その他」に世帯類型「不詳」を加え、「一般世帯」の合計と合うようにしている。

表4 七浦地区の世帯類型

世帯類型	世帯数(戸)	比率(%)
単身世帯A	102	40.16
単身世帯B	14	5.51
夫婦世帯A	64	25.20
夫婦世帯B	13	5.12
核家族世帯A	22	8.66
核家族世帯B	14	5.51
直系家族	23	9.06
その他	2	0.79
合計	254	100.00

出所:2017年6月23日付住民基本台帳

世帯類型の区分

1. 単身世帯
 - A. 高齢者のみ
 - B. 高齢者のみでない
2. 夫婦世帯
 - A. 高齢者のみ
 - B. 高齢者のみでない
3. 核家族世帯
 - A. 満40歳以上の未婚の子を含む
 - B. 満40歳以上の未婚の子を含まない
4. 直系家族世帯
5. その他

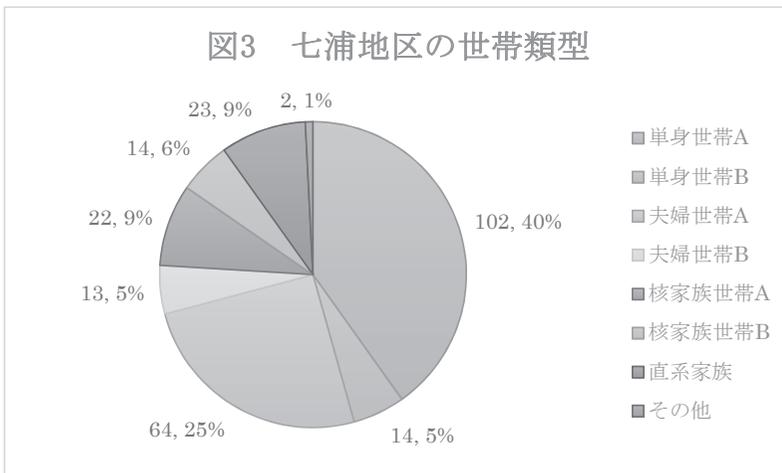


表5 七浦地区と全国の世帯類型

世帯類型	七浦地区(2017年)		全国(2015年)	
	世帯数(戸)	比率(%)	世帯数(千戸)	比率(%)
単身世帯	116	45.67	18418	34.53
夫婦のみ世帯	77	30.31	10718	20.10
核家族世帯	36	14.17	19036	35.69
その他	25	9.84	5160	9.68
計	254	100.00	53332	100.00

出所:2017年6月23日付七浦地区住民基本台帳
2015年国勢調査(総務省統計局ウェブサイト)

帯」と「夫婦世帯」が全国よりも多いが、「核家族世帯」は全国割合の半分以下であることが分かる。一方で、地方に伝統的に多く見られる、3世代以上の成員の同居を典型とする「直系家族世帯」は9.06%と少ない。

これらの数字が示すのは少子高齢化の現状である。七浦地区住民の平均年齢は67.28

歳であり、高齢者のみで暮らす世帯は 173 戸で全世帯数の 68.11%にのぼる。特に小規模集落の多い山側の地域では、高齢者のみで暮らす世帯は 73.81%（84 戸中 62 戸）と高率になる（2017 年 6 月 23 日付住民基本台帳）。日頃の買い物の際に不便を感じていたり災害時などに弱者となる人も多いと考えられる。

1960 年代からの人口と世帯数の変化および現在の人口構成から推測されるのは、高度経済成長期から顕著になった若年および壮年人口の都市への移動による人口減少と高齢化である。一方、聞きとりで何人かの方がそうであったように、高齢に近くなって都市から七浦地区に戻ってくる人もいる。

住民の平均年齢	67.28 歳	
高齢者数	313人	66.31%
非高齢者数	159人	33.69%
計	472人	100.00%
高齢者のみ世帯	173/254戸	68.11%
海側集落	111/171戸	65.29%
山側集落	62/84戸	73.81%
（出所：2017年6月23日付住民基本台帳）		

4. おわりに

以上、七浦地区について概観してきた。

本調査実習の目的はフィールドワークを通して学生が地域社会の現状を理解することである。方法としては、これまでの調査実習と同様に、4月から7月まで主に大学研究室にて調査方法の学習や文献・統計資料の収集、分析などを、予備調査と並行して行い、8月後半に対象地域に滞在して住民の方々へ集中的に聞きとり（「本調査」と呼ぶ）を行った後、10月から2月まで学生が各自の関心にもとづいて報告書を作成してゆくという方法をとった。報告書執筆時には、各学生の必要にしがたい適宜補充調査を実施した¹³。

これまでと同様に、本報告書は全体としてひとつの総合的な地域調査報告書を目指しているが、第2章以下の各章は各執筆者の関心に沿ったテーマについて書かれているため、全体として七浦地区についての網羅的、体系的な記述がなされているわけではなく、この地域を語る際に重要な事柄がいくつか抜け落ちていることは述べるまでもない。さらに、短い本調査とその後の散発的な補充調査で得られたデータは限られたものであり、お話をうかがう機会のなかった方も多い。何よりも学生の実習ということで調べる側の未熟さも言うまでもなく、本報告書の記述にも分析にも不正確、不十分な点があるものと自覚している。関係各位の忌憚ないご批判、ご叱正をお願いする次第である。

本報告書で示される聞きとり対象者の年齢は、その方が2017年の誕生日に迎える満年齢である。

¹³ より具体的な調査日程については本書「おわりに」に掲げてある。